

# 初めての卒業生を送り出して

## 村上中等教育学校 校長 平澤秀昭さんに聞く

大 滝 浩 道

はじめに

新潟県の公立の中等教育学校（中高一貫教育校）は○七年（平成一九）四月までに五校が設置されました。全国では一七校の設置（文部科学省ホームページ）です。本県では設置数は群を抜いています。このうちの村上中等教育学校はこの春、県内の中等教育学校として初めて卒業生を送り出しました。研究所では村上中等教育学校を訪ね、校長先生からお話をお聞きしました。

村上中等教育学校は今年の春、県内の中等教育学校としては初めて卒業生を出しましたが、この六年間をふり返ってどのように評価されますか。

本校の教育方針の一つは豊かな人間性を育むことです。二つめには確かな学力を育てる。この二つを通して地域に根ざした世界に通じる骨太の人間の育成をめざしています。その上で社会に貢献することのできる、また役に立つような人間になってほしいと考えています。確かな学力と言う点では進路希望の達成が一つの目安になります。この春の卒業生について見ますと、その目標はほぼ達成されたのではと評価しています。

進学では大体生徒の希望通りの学校に進学ができたと思います。たとえば音響技術や服飾デザインなど、大学では学ぶことのできない勉強をするため、そういう方面の専門学校にも入学しています。また就職も何人かいますが、いずれも大学に十分進学できる学力を

持っている生徒でしたが、本人の希望で就職しました。

豊かな人間性を育むためにいろいろな体験学習やボランティア活動を行っています。たとえば春のお人形さま巡り、粟島体験学習、学年ごとの登山、あるいは全学年による44kmチャレンジ・ウォーク等の行事等に取りこんでいます。学校の近くの防砂林の下草取りのボランティア活動では、生徒が声を掛けあつて自主的にやつており感心します。

私はこれらの体験学習などを通して、子どもたちの感性や情緒など育っていると見ています。体力や気力づくりをベースとして豊かな人間性を育んでもらいたいと思っています。

県内初の中高一貫教育校として、どのような困難がありましたか。

モデル校というものがありませんでしたので、試行錯誤の連続であつたと聞いています。相当な苦勞があつたと思います。

前期課程（中学校に相当）に入学してくる生徒は学力検査を受けて入学してくるわけではないので、入学

当初はかなりの学力差をもつて入ってきます。そのため先生方は課題や宿題を出して個別指導を行い、丁寧に学力差を埋める指導をしています。学校の授業だけでなく、土、日も含めて毎日、家庭学習の課題を出します。しかしそれを達成すると、安心してしまい、それ以上のより高い目標を持たなくなってしまう恐れがあり、自学自習の心配されるところの一つです。

また前期課程から後期課程（高校に相当）に進級するとき、入学試験がありませんから緊張感がなく、中弛み状態になるのが大きな課題です。今のところ、課題解決のためのこれだというような決定打はありません。他の中高等教育学校でも同様ではないでしょうか。

他校に転校する生徒もいますが、このほとんどは部活が少ない、入りたい部活がないという理由での転校です。たとえば本校には運動部は九つありますが野球部がありません。そのために転校するケースもあります。

今後の取りくみの方向を教えてください。

生徒や保護者の進路希望はやはり国公立大学の志望

初めての卒業生を送り出して

が多いわけですから、この志望を達成できるように一層の努力や工夫を重ねていく必要があります。

本校では宿題や課題をこなし、小テストをくり返して学力の向上に努めています。それと同時に部活と学習のバランスをとる工夫も必要です。学校行事も同様です。

私は先生方のきめこまかで丁寧、かつ親身な指導に感謝しています。学校の教育活動の成否は、言うまでもありませんが、教える先生の姿勢や意欲に大きく負う、とともに学習、部活動、学校行事等の本校ならではのバランスがどの辺にあるかを考え、それに見合った教育活動を行っていくことではないかと考えています。

(聞き手 大滝浩道)

## 新潟県立村上中等教育学校 資料

〔資料2〕市町村別在籍生徒数

市町村名	生徒数	市町村名	生徒数
旧村上市	209	旧山北町	25
旧朝日村	50	関川村	12
新発田市	46	阿賀野市	12
旧荒川町	44	新潟市	4
旧神林村	36	聖籠町	2
胎内市	32	その他	3
合		計	475

〔資料1〕一期生の進路状況

進路先	人数
国公立大学	29
私立大学	23
短期大学	5
専門学校等	6
就職	4
その他	6
合計	73

※いずれも「SCHOOL GUIDE 2009」より

[資料3]

教育目標

主体的に学び、確かな学力と豊かな人間性を身に付け、国際的な視野をもって社会に貢献できる人間の育成

校 是

Let's try ! 挑戦・創造・貢献

教育方針

- 1 自主的な学習態度を養い、学力の向上と学問に対する探究心の育成を図る。
- 2 自らの人生を切り開いていくたくましさや創造性や社会性など豊かな人間性を育む。
- 3 地域と国際社会に対する理解を深め、広く社会に貢献できる力を培う。

学校運営計画

学校運営方針		生徒、保護者及び地域住民の期待と信頼に応え、生徒の夢と希望を実現するために、親身な指導を行い、世界に通じる骨太の人間を育成する。			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的目標	
<p>1～3学年は、学習指導法が確立し、また、地域の人材の協力を得た体験活動が定着してきた。</p> <p>本年度は、4～6年生の進路目標の明確化と実現に向けて、自主的に学習に取り組む態度の育成が課題となる。家庭学習4時間の定着、個人面談による学習状況のチェック、計画的・組織的な職業研究・学問研究、模試の事前・事後指導などきめ細かな学習指導、進路指導を展開する。</p>		<p>確かな学力を向上させる。</p>		<p>ア 個に応じた指導の一層の充実を図る。 イ 生徒がいきいきと活動する魅力ある授業づくりに努める。 ウ 質・量共に充実した家庭学習習慣の形成を支援する。</p>	
		<p>豊かな人間性を育成する。</p>		<p>ア 自己の精神的・肉体的限界に果敢に挑戦するたくましい態度を育てる。 イ 思いやりの心と社会性を培うとともに円満な人間関係を築く態度を育てる。 ウ 創意を生かした自主的な活動ができるようにする。 エ 礼儀等を身に付け、品位ある自律的な行動がとれるようにする。</p>	
経路		具体的目標		具体的方策	
確かな学力の向上	発達段階に応じた各学年段階での進路目標を明確にさせるとともに、主体的に学ぶ態度を育てる。			「総合的な学習の時間」における進路研究を充実させる。	
	身につけさせなければならない学習内容は、徹底して身に付くまで指導する。			各学年の発達課題を明確にし、それに対する手だてを講じる。	
				定期考査基準点に達しない生徒への指導を確実に行う。	
				再テストを実施するなど、朝テストに真剣に取り組ませる。	
				定期的の小テストを実施し、きめ細かく定着状況を確認する。	
英検、数検、漢検において、各学年の目標級への合格を目指す。			各検定とも1年に1回は受検するよう働きかける。		
		1年	2年	3年	4年
英検	4級	3級	準2級	2級	
数検	5級	4級	3級	準2級	
漢検	4級	3級	準2級	2級	
			検定対策講座を各教科で実施するなど合格に向けた支援を行う。		

初めての卒業生を送り出して

確 か な 学 力 の 向 上	前期課程 NRTで偏差値60以上 後期課程 進研模試で偏差値60以上 全統模試で偏差値55以上 卒業時 国公立大学合格者数50人以上 進学達成率90%以上	模試対策の指導を充実させる。 結果を的確に分析、評価し、改善点を明らかにして対策をとる。 結果をふまえた面談を実施し、個々の課題や成果を明らかにする。
	授業の満足度を90%以上にする。	授業評価を年2回実施し、授業改善の課題を明確にするとともに、生徒の実態や要望を踏まえた授業を実施する。 指導力の向上を目指し、授業研究を全員が実施する。 授業態度の振り返りを定期的に行い、望ましい態度を養う。
	各学年段階の目標家庭学習時間の確保を目指す。 1～3年生は2時間以上	各教科とも、質、量ともに、よく練られた家庭学習課題を課すようにする。 各教科とも課題の提出に向けた働きかけを確実に行う。 家庭学習記録による学習時間調査を行い、不足している生徒に対する個別指導を実施する。 学年だよりを毎月1回以上発行し、学校生活、家庭学習等についての保護者の理解を深める。
豊 か な 人 間 性 の 育 成	目的の明確な充実した体験活動を実施し、生徒が成長を実感できるようにする。	地域や保護者との連携を図り、活動を充実させる。 事前・事後指導を充実させ、活動の意義や価値を十分に生徒に指導する。
	きちんとした学習環境づくりに努め、健康や安全に留意して生活できる実践力を育成する。	時季に応じた適切な健康管理指導を行うとともに、清掃指導を徹底する。
	個々の生徒の学校生活への適応状況を的確に把握し、安心して生活が送れるようにする。	生活実態調査を定期的に行い、それをもとに、教育相談を行う。 マイノートや家庭学習記録を活用して生徒理解に努める。
	人権同和教育、道徳教育の充実を図る。	道徳の時間を年間35時間実施する。 人権同和教育の講演会や学習会を計画的に実施する。 職員研修会を年2回実施し、外部指導者の招聘など、研修内容の充実を図る。
	生徒会活動や学級活動を活性化させるとともに、生徒の学校生活上の課題を明確にし、その解決を図る。	専門委員会、学年委員会、執行部それぞれで学校生活向上のための取組を企画し、各分掌で調整の上、計画的に実践する。
	品位ある服装、登下校時間の厳守、さわやかな挨拶の励行ができる生徒を育成する。	職員の間で共通理解に基づく声かけを継続的に行うとともに、指導強化期間を設けて指導の徹底を図る。

※「学校要覧」から

[資料4]

教育課程

教科専	学年				理 系				文 系				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	5 年	6 年	5 年	6 年	5 年	6 年	
国 語	140	105	105	国語総合 5	現代文 2 古典 3	現代文 2 古典 3	現代文 2 古典 3	現代文 3 古典 4					
社 会 地理歴史 公民	100	100	80	世界史A 2 現代社会 2	地理B 4 日本史B 4		地理B 4 日本史B 4	世界史B 3 地理B 3 日本史B 3					
数 学	140	140	140	数学Ⅰ 数学A 2	数学Ⅱ 数学B 2	数学Ⅲ 数学C 2	数学Ⅱ 4 数学B 2	数学Ⅱ 4					
理 科	100	100	80	総合A 2 化学Ⅰ 3	物理Ⅰ 4 生物Ⅰ 3	物理Ⅱ 5 生物Ⅱ 2 化学Ⅱ 2	物理Ⅰ 4 生物Ⅰ 4						
音 楽 美 術 道 道	4.5 4.5 .	3.5 3.5	3.5 3.5	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 武道Ⅰ 2									
保健体育	90	90	90	体育 2 保健 1	体育 2 保健 1	体育 3	体育 2 保健 1	体育 3					
技術家庭 家 庭	6.5	6.5	30	家庭基礎 2									
情 報					情報B 1	情報B 1	情報B 1	情報B 1					
外 国 語 (英 語)	140	140	140	英語Ⅰ 4 OCⅠ 2	英語Ⅱ 4 3行イン 3	3行イン 4 3行イン 2	英語Ⅱ 4 3行イン 3	3行イン 5 3行イン 2					
選 択 学校設定 教科・科目	4.5 国際理解 }5 情報科学 }5	100 国際理解 }5 情報科学 }5 国語 }30 数学 }30 英語 }25 音楽 }25 美術 }25 体育 }25 技術 }25 家庭 }25	175 国際理解 }5 情報科学 }5 国語 }35 数学 }35 英語 }35 科学Ⅰ }60 科学Ⅱ }60 理科Ⅰ }35 理科Ⅱ }35 音楽 }35 美術 }35 体育 }35 技術 }35 家庭 }35			5単位選択 地理B } 日本史B } 現代社会 }3 生物Ⅰ } 国表Ⅰ }2 現代の科7 } 時事英語 }	3単位選択 世界史B } または } 倫理2+ }3 音楽Ⅰ } 美術Ⅰ } 武道Ⅰ }1	8単位選択 政経 } 倫理 } 現代社会 }3 化学Ⅰ } 生物Ⅰ } 物理Ⅰ } または } 国表Ⅰ }3 1行書選択2 } 音楽Ⅱ } 美術Ⅱ } 武道Ⅱ } 時事英語 }					
総合学習	70	70	70	1	1	1	1	1					
道 徳	3.5	3.5	3.5										
学校活動 行事活動	3.5	3.5	3.5	1	1	1	1	1					
計	1050	1050	1050	35	35	35	35	35					

(注) 1 表中の数字のうち、1～3年は年間総授業時数、4～6年は単位数を表す。

2 両系課程については、中等教育学校の「教育課程の基体的枠組」(学校教育法施行規則第65条の6)を適用している。

※「学校要覧」から